

## 【京都府知事賞】

「頑張っている」

京都府立南陽高等学校附属中学校1年

植月理心



私は「障がい者」がどれだけ頑張っているのかをもっと知ってもらいたいです。

障がい者で頑張っている人の代表と言ったら、パラリンピックの選手や過去の人物だとヘレン・ケラーなどが思い浮かぶと思います。その人達の伝記や話を聞いた人々はすごいと思うのではないのでしょうか？でも、その事が出来るようになるためには普通の人の何十倍の血のにじむような努力をしているのです。

私には小学4年生の障がい者の妹がいます。妹は赤ちゃんの頃病気になる、脳の半分を失ってしまいました。その時、お医者さんから「もう一生歩けないし、しゃべれない。車椅子生活になるだろう」と言われました。でも、驚くことに現在の妹は普通にしゃべれるし、歩くことも走ることで出来た。その上、字を書いたり、足し算・引き算もすることが出来ます。私はこの時初めて、当たり前が出来るということが、どれだけ素晴らしく嬉しいことなのかを知ることが出来ました。しかし、それらが出来ようになったのは、妹、そして母の努力があったからです。

母は妹の将来が普通の子とはあまりに異なってしまうと知った時、とても悲しかったそうです。しかし、周りの人々の支えもあり、妹を育てていこうと父と決心したそうです。

妹はしゃべり始めたり歩き始めたりするのは普通の子と同じくらいか少し遅いくらいで、保育園ではみんなと仲良く遊ぶことが出来ました。しかし、小学校に入ってからが大変でした。支援級で勉強を習いはじめると普通の子達との差が目立ち始めたのです。保育園の頃は何とか出来ていたことも小学校に入り、やるのが難しくなったからだだと思います。例えばひらがなを習うとき、普通なら1日に5文字ぐらいポンポンと覚えて行くことが出来ます。

でも、妹の場合は一つの字を10ページに何回書いても、次の日には忘れてしまうということの繰り返しでした。でも、母は諦めずに妹に字を教え続けました。そのおかげもあり、妹は1年生でひらがなを覚え、2年生ではカタカナ、3年生では簡単な漢字を覚え始めることが出来たのです。私と母は妹が何か一つ出来るようになるまで心から一緒になって喜びました。そして、妹が出来ることが増えていったのにはもう1つ理由があります。それはプライドです。私には妹の他にも弟がいるのですが、これが良く出来た弟でひらがなやカタカナや漢字、足し算や引き算が4歳の頃にはほとんど出来ていたのです。妹は、弟に負けたくないという思いで一生懸命勉強したのかなと思います。

ところが、そんなある日、妹は「何で何回も教えているのにわかってくれないの？」と学校で友達から言われたそうです。確かに普通の人なら一度言ったら覚えていられることでも、妹は何十回言ってもわかってくれないことがよくあります。でも何回も言い続けていたら絶対にわかってくれます。きっとその友達は途中で言い続けることを諦め、イライラしてそんな風に言ってしまったのだと思います。妹は私に「何で私は出来ないの？」と聞いてきたので、正直ドキッとしました。「それは、病気のせいだよ」と言いたいのを我慢して、「一緒に出来るようになるまで練習しよっか!」と言い、練習に付き合っていました。結局、出来るようになるまで2週間かかりましたが、妹は最後まで諦めませんでした。そして、出来るようになったことを友達に伝えると喜んでくれたそうで、妹もとても嬉しそうでした。もちろん、私も嬉しかったです。

妹は出来ないことがたくさんあるのではなく、出来るようになるまでに時間がかかるだけです。そして、出来るようになるために長い時間努力し続けています。普通だったら諦めて投げ出してしまうようなことをやり続けるのです。これがどれだけすごいことか、私には分かります。それは、一番近くでその姿を見てきたからです。だから、皆さんにも、もし町で障がいのある人を見かけたら、あの人頑張っているんだろうなと思ってもらいたいです。そして、障がいがあってもこんなに頑張っている人がいるのだから、私も負けずに頑張ろうと思ってもらいたいです。